

記 入 日 2016年 1月15日

## 1. 概 要

実践団体名	名古屋市立中央高等学校（昼間定時制）		
連絡先	052-241-6538		
プランタイトル	4つのチャレンジプラン・中央高校総力挙げて取り組みます！		
プランの対象者	5 高校生 8 教職員・保育士等	対象とする 災害種別	7 災害全般

## 【プランの目的・ここがポイント！】

単位制高校である本校は無学年・無学級制をとっており、授業では生徒自らが作成した時間割に基づいてそれぞれが教室移動を行うため、災害時における安否確認には困難さが伴う。また、生徒の約7割が不登校を経験し、発達障がい等さまざまな事情を抱える生徒も多く、車いすを使用している生徒も数名在籍する中で、防災にどのように対応していくかが学校としての大きな課題となっている。

近年、東海地方でも巨大地震等の発生が危惧される中、上記のような本校の特殊事情も鑑みた上で、2015年度は①生徒・教職員の『防災への意識を少しでも高める』こと、②『定時制高校における避難誘導體制に着手する』ことを目的として、学校全体でさまざまな取り組みを行うこととした。

## 【プランの概要】

<生徒対象>

- ① 総合的な学習の時間での取り組み（講義・実習・施設見学等 / ラジオドラマの作成）
- ② 防災講話（東日本大震災体験談）
- ③ 学校祭での取り組み（非常食カレー体験型ブースの開設 / 図書館・学習コーナーの充実）
- ④ スポーツフェスティバルでの防災関連2種目の導入

<教職員対象>

- ① プレ防災訓練（災害時アクションカードの使用確認と生徒役ぬいぐるみの救出）
- ② 地震を想定した全校避難訓練（2段階点呼） / 避難経路の整備（階段への蓄光テープ貼布）
- ③ 救急救命講習会
- ④ 心の減災講演会

## 【期待される効果・ここがおすすめ！】

- ① 定時制高校の生徒たちも、総合的な学習の時間や各種行事の中で楽しみながら『防災』に触れることで、防災に対する意識の向上が図られる。
- ② 教職員対象のプレ防災訓練の実施方法は、小中特別支援等各種学校でも取り入れることができ、避難誘導や救助活動体制の整備につながる。

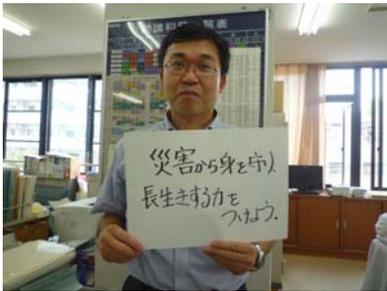
## 2. プランの年間活動記録 (2015 年度)

	プランの立案と調整	準備活動・事後活動	実践活動
4月	(◎) プラン全体に関する各担当者との打合せ	(◎) 必要物品等の集約	
5月	(18) 訓練方法の検討 (11・20) 講師依頼		総合的な学習の時間 (1)
6月	(21) 講師依頼	(18) 事後アンケート実施	総合的な学習の時間 (2) 教職員プレ防災訓練 (18)
7月	(17) 競技内容の検討 (12) 1次企画書の提出	(18) まとめと課題整理 (11) 担当者と事前打合せ	総合的な学習の時間 (3・4)
8月		(20) 講師との事前打合せ	夏の課題 (13)
9月	(19) 訓練方法の検討 (12) 2次企画書の提出	(12) 模擬店に関するシミュレーションの実施 (16) 演劇練習	総合的な学習の時間 (5・6・7) 全校生徒向け防災講話 (11)
10月		(17) 競技に関するシミュレーションの実施 (19) 事後アンケート実施	総合的な学習の時間 (8) 地震を想定した避難訓練 (19) 学校祭 (12・13・14・15・16)
11月		(20) 講師との事前打合せ	総合的な学習の時間 (9) スポーツフェスティバル (17)
12月		(19) まとめと課題整理	総合的な学習の時間 (10) 教職員救急救命講習会 (20)
1月		(21) 講師との事前打合せ	全校集会 (15)
2月			教職員心の減災講演会 (21)
3月			
随時	(◎) 実施に関する各担当者との事前打合せ	(◎) 必要物品等の購入	
			講話(11)・講習会(20)・講演会(21)以外については、各担当者と随時調整

<備考> ◎ : 全体に関する内容

## 3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： ①】

タイトル	災害から身を守り、長生きする力をつけよう（その1）
実施月日（曜日）	5月20日（水）
実施場所	物理実験室
担当者または講師	石原 章彦（教諭）
所要時間	90分（3・4限）
プログラムのカテゴリ、形式	4 総合的な学習の時間
活動目的	6 防災に関する知識を深める
達成目標	被災したときの行動を学び、事前の備えを確かなものにする。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<p>●講義</p> <p>① 防災クイズや意識チェックで自らの知識の度合いを知ろう</p> <p>② 非常用持出袋のリストを作ろう</p> 
準備、使用したもの ・人材、道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義用資料（担当者作成）</li> <li>・防災クイズ&amp;意識チェック（担当者作成）</li> </ul>
参加人数	15名
経費の総額・内訳概要	資料印刷代等
成果と課題	<p>【成果】 被災したときに必要な知識を会得することができた。</p> <p>【課題】 災害が発生した時、得た知識を実際に役立てられるかが課題として残る。</p>
成果物	資料／防災クイズ

## 【実践プログラム番号： ②】

タイトル	災害から身を守り、長生きする力をつけよう（その2）
実施月日（曜日）	6月17日（水）
実施場所	物理実験室
担当者または講師	石原 章彦（教諭）
所要時間	90分（3・4限）
プログラムのカテゴリ、形式	4 総合的な学習の時間
活動目的	6 防災に関する知識を深める
達成目標	大災害を自分の事として感じ、「備え」に対する意識を高める。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<p>●講義</p> <p>① 東北地方太平洋沖地震を教訓にしよう</p> <p>② 南海トラフ巨大地震を知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気象庁が発表する「東海地震に関する情報」</li> <li>・ 災害用伝言板（Web171）</li> </ul> <p>③ 非常用持出袋に入れるものリストを検証しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意見交換会の実施</li> </ul> 
準備、使用したもの ・ 人材、道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義用資料（担当者作成）</li> <li>・ DVD（NHKスペシャル）</li> </ul>
参加人数	13名
経費の総額・内訳概要	資料印刷代等
成果と課題	<p>【成果】</p> <p>東北地方太平洋沖地震の映像や南海トラフ大地震に関する話から、大きな危険性を孕んだ震災がこの名古屋の地でも起こり得ることを学んだ。</p> <p>【課題】</p> <p>さまざまな場所で起こった大地震を、より身近な事柄に感じるような工夫が必要である。</p>
成果物	資料

## 【実践プログラム番号： ③】

タイトル	災害から身を守り、長生きする力をつけよう（その3）
実施月日（曜日）	7月1日（水）
実施場所	講義室 / TSS室
担当者または講師	石原 章彦（教諭）
所要時間	90分（3・4限）
プログラムのカテゴリ、形式	4 総合的な学習の時間
活動目的	9 災害対応能力の育成
達成目標	被災時に安全に避難する方法を考える。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<p>●実習</p> <p>① 災害用伝言板（Web171）を試してみよう</p> <p>② 「役に立つロープワーク（結び）入門」をやってみよう</p> <p>③ インターネットで自分の町のハザードマップを探し、自分の家の状況や避難場所を探してみよう</p>
準備、使用したもの ・人材、道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義用資料（担当者作成）</li> <li>・携帯電話 / ロープ / パソコン</li> </ul>
参加人数	15名
経費の総額・内訳概要	資料印刷代等
成果と課題	<p>【成果】 被災時の連絡方法、ロープワークなど避難生活に役立つ知識を得ることができた。</p> <p>【課題】 実際の避難ルートを歩いて確認する時間を設ける。</p>
成果物	資料／自宅周辺のハザードマップ

## 【実践プログラム番号： ④】

タイトル	災害から身を守り、長生きする力をつけよう（その4）
実施月日（曜日）	7月18日（土）
実施場所	名古屋市港防災センター
担当者または講師	センター職員
所要時間	9：15～12：30
プログラムのカテゴリ、形式	4 総合的な学習の時間 13 体験学習
活動目的	5 災害を疑似体験
達成目標	見学・実習を通して、災害時に何をすべきかを考える。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<p>●実習・体験</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① アルミ缶と牛乳パックでご飯を炊こう</li> <li>② 煙避難体験をしよう</li> <li>③ 地震体験室で過去の巨大地震を体感しよう</li> <li>④ 施設内を自由に見学しよう</li> </ol> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
準備、使用したもの ・人材、道具、材料等	・アルミ缶 / 牛乳パック / 米
参加人数	17名
経費の総額・内訳概要	米代等
成果と課題	<p>【成果】 身近にあるものを利用した炊飯方法、地震体験を通してその危険性と適切な初期行動を学んだ。</p> <p>【課題】 学んだことを忘れないようにするためのマニュアル(メモ)づくりを今後実施する。</p>
成果物	なし

## 【実践プログラム番号： ⑤】

タイトル	大切ないのちを守ろう！（その1） 災害発生時の行動と応急手当
実施月日（曜日）	9月2日（水）
実施場所	物理実験室
担当者または講師	河井 寿恵（養護教諭）
所要時間	45分（3限）
プログラムのカテゴリ、形式	4 総合的な学習の時間
活動目的	9 災害対応能力の育成
達成目標	被災時の限られた資源や状況の中で、何ができるかを考える。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<p>●講義・実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 地震発生時の行動マニュアルを確認しよう</li> <li>② 命に関わる症状を早く見つけよう</li> <li>③ 災害発生後の心の動きを知ろう</li> <li>④ 身近なものを救助や応急手当てに活用しよう <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災紙芝居型カードゲームをやってみよう</li> </ul> </li> </ol> 
準備、使用したもの ・人材、道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義用資料（担当者作成）</li> <li>・動画：千葉県立東金特別支援学校「あたりまえ防災」</li> <li>・防災紙芝居型カードゲーム「なまずの学校」</li> </ul>
参加人数	12名
経費の総額・内訳概要	1万円（書籍、防災紙芝居型カードゲーム2セット）
成果と課題	<p>【成果】一生徒感想文より—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・命を守ることを第一として、今ある資源を活用する能力が必要なのことが分かった。</li> <li>・限りある物資を最大限に活用してこそ生きる道は多いと思った。</li> </ul> <p>【課題】</p> <p>今回は楽しく防災を学ぶことに重点を置いたが、実際に被災した際の実践力を身に付けることが今後の課題である。</p>
成果物	資料



## 【実践プログラム番号： ⑥】

タイトル	大切ないのちを守ろう！（その2） 災害時の食事とアレルギー
実施月日（曜日）	9月2日（水）
実施場所	物理実験室
担当者または講師	河井 寿恵（養護教諭）
所要時間	25分（4限前半）
プログラムのカテゴリ、形式	4 総合的な学習の時間
活動目的	9 災害対応能力の育成
達成目標	災害時の食事とアレルギーについて知識を深めるとともに、非常食を実際に試食することによって家庭での備えを考える。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<p>●講義・実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 災害食の3つのステップを知ろう</li> <li>② 食物アレルギーについて理解を深めよう</li> <li>③ 災害食(パン缶)を食べてみよう</li> </ol> 
準備、使用したもの ・人材、道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義用資料（担当者作成）</li> <li>・パン缶 / 紙皿 / 手拭きシート</li> </ul>
参加人数	12名
経費の総額・内訳概要	1万円（書籍、パン缶、紙皿、手拭きシート）
成果と課題	<p>【成果】—生徒の感想文より—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パンの缶詰の存在は前から知っていたが、食べるのは今回初めてだった。</li> <li>・味やにおいで好き嫌いが出るので、家族構成を考えながら買おうと思う。</li> <li>・アレルギー等にも気を付けて周りの人とも話し合えて楽しく授業ができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <p>本校は特に味やにおいなどに過敏な生徒が多数いるため、試食や備蓄にはプレーンのもの以外は味・においにも注意して用意するなど配慮が必要である。</p>
成果物	資料

## 【実践プログラム番号： ⑦】

タイトル	災害をテーマにしたラジオドラマの作成（その1）
実施月日（曜日）	9月2日（水）
実施場所	普通教室
担当者または講師	吉田由美子（教諭）
所要時間	90分（3・4限）
プログラムのカテゴリ、形式	4 総合的な学習の時間
活動目的	6 防災に関する知識を深める
達成目標	過去の地震の被害状況を知り、自身の暮らしに当てはめてみる。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<p>●講義・演習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 防災コンテスト受賞作品を視聴しよう</li> <li>② 阪神淡路大震災や東日本大震災の証言を調べよう</li> <li>③ 生活の中で巨大地震が起きた場合を想定しよう</li> </ol> 
準備、使用したもの ・人材、道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義用資料（担当者作成）</li> <li>・参考書籍等</li> </ul>
参加人数	3名
経費の総額・内訳概要	資料印刷代
成果と課題	<p>【成果】 それぞれの作品や被災状況を知ることによって、災害に関する内容について理解を深めた。</p> <p>【課題】 自分自身の生活の中で地震を想定し、ラジオドラマの脚本テーマを絞ることに繋げる。</p>
成果物	資料

## 【実践プログラム番号： ⑧】

タイトル	災害をテーマにしたラジオドラマの作成（その2）
実施月日（曜日）	10月7日（水） / 10月21日（水）
実施場所	普通教室
担当者または講師	吉田由美子（教諭）
所要時間	90分（3・4限）×2回
プログラムのカテゴリ、形式	4 総合的な学習の時間
活動目的	8 防災意識を高める
達成目標	被災地で本当に役立つ物を知り、備えの大切さを学ぶ。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<p>●講義・演習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 防災に関するゲームを行おう</li> <li>② ラジオドラマの脚本の書き方について学ぼう</li> <li>③ ラジオドラマを執筆しよう</li> </ol> 
準備、使用したもの ・人材、道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義用資料（担当者作成）</li> <li>・防災紙芝居型カードゲーム「なまずの学校」</li> <li>・中区ハザードマップ</li> <li>・書籍</li> </ul>
参加人数	3名
経費の総額・内訳概要	資料印刷代
成果と課題	<p>【成果】 用途が限定される物より、持ち歩いて用途が多い物の方が有用であることが実感できた。</p> <p>【課題】 防災のアイテムだけではなく、恐怖やパニックなどの心理面での備えやケアについても学ぶ必要がある。</p>
成果物	資料／ラジオドラマ

## 【実践プログラム番号： ⑨】

タイトル	災害をテーマにしたラジオドラマの作成 (その3)
実施月日 (曜日)	11月25日 (水)
実施場所	普通教室
担当者または講師	吉田由美子 (教諭)
所要時間	90分 (3・4限)
プログラムのカテゴリ、形式	4 総合的な学習の時間
活動目的	8 防災意識を高める
達成目標	被災した時の心の動きを想像する。
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	<p>●講義・演習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① フランスでの同時多発テロについての文章を読もう</li> <li>② テロや震災など、理不尽な出来事の後にはどのような精神状態になるのかを考え、話し合おう</li> <li>③ 各自がラジオドラマのテーマを決めて執筆し脚本を完成しよう</li> </ol> 
準備、使用したもの ・人材、道具、材料等	・講義用資料 (担当者作成)
参加人数	3名
経費の総額・内訳概要	資料印刷代
成果と課題	<p>【成果】 いつも通りに暮らしたいと誰もが願うものの、心の奥に感じている恐怖を取り払うことは難しく、パニックは誰にも起こり得ることを実感した。</p> <p>【課題】 心理面での想像をドラマの脚本に活かすことが重要となる。</p>
成果物	資料／ラジオドラマ

## 【実践プログラム番号： ⑩】

タイトル	災害をテーマにしたラジオドラマの作成（その4）
実施月日（曜日）	12月16日（水）
実施場所	普通教室
担当者または講師	吉田由美子（教諭）
所要時間	90分（3・4限）
プログラムのカテゴリ、形式	4 総合的な学習の時間
活動目的	8 防災意識を高める
達成目標	ラジオドラマの録音を工夫する過程で「災害」を実感する。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<p>●講義・演習</p> <p>① ラジオドラマを録音しよう</p> <p>② 他の生徒のラジオドラマを聞き、感想を語ろう</p> 
準備、使用したもの ・人材、道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラジオドラマ脚本（生徒作成）</li> <li>・講義用資料（担当者作成）</li> <li>・音声録音できる機材（iPod）</li> <li>・効果音CD / CDプレーヤー</li> </ul>
参加人数	3名
経費の総額・内訳概要	資料印刷代
成果と課題	<p>【成果】</p> <p>文字で書いた脚本に音声を載せることで、当初イメージしていた「災害」が、より伝わりやすくなることを実感した。</p> <p>【課題】</p> <p>効果音の取り入れ方の工夫や声での表現方法の練習が必要である。</p>
成果物	資料／ラジオドラマ脚本3パターン／録音データ

## 【実践プログラム番号： ⑪】

タイトル	防災講話
実施月日（曜日）	9月1日（火）
実施場所	講堂
担当者または講師	田畑 祐梨 氏（東日本大震災津波等語り部）
所要時間	10:15～11:15
プログラムのカテゴリ、形式	3 講演会・シンポジウム
活動目的	8 防災意識を高める
達成目標	東日本大震災の話を通じて、自分自身が日々どのようなことに意識して、災害に備えるべきかを考える。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<p>●全校生徒向け講演会</p>  
準備、使用したもの ・人材、道具、材料等	・パソコン / レーザーポインター / プロジェクター
参加人数	全校生徒・教職員
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	<p>【成果】 貴重な体験を、全校生徒が聞く機会を持つことができた。 特に田畑氏本人が恩師から学んだ「ありがとう」「だいすき」のふたつの魔法の言葉を、周囲の人々に伝えることの大切さについての語りでは、年齢が近いこともあって生徒の心に強く響き、全体として大変有意義な講演会となった。</p> <p>【課題】 大変重たい内容の話や画像があり、具合が悪くなる生徒も数名みられたため、時間配分など今後配慮が必要であると感じた。</p>
成果物	なし

## 【実践プログラム番号： ⑫】

タイトル	中央祭（模擬店）：災害時を想定した非常食カレーの試食
実施月日（曜日）	10月29日（木）
実施場所	多目的室
担当者または講師	藤田圭以子（教諭） ・ 服部真味子（教諭）
所要時間	9：00～12：30
プログラムのカテゴリ、形式	1 イベント・行事
活動目的	8 防災意識を高める
達成目標	非常食の調理を体験する中で、日々の備えの重要性を認識する。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<p>●方法</p> <p>① 来場者にランプとカレーを渡す。</p> <p>② 来場者は真っ暗にした室内で、ランプのわずかな明かりの下でカレーを試食する。</p>  
準備、使用したもの ・人材、道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルファ米</li> <li>・非常食カレー</li> <li>・鍋 / やかん / スプーン / 容器 / スケール等調理器具</li> <li>・暗幕 / パーテーション / ポール / ランプ</li> </ul>
参加人数	生徒10名 / 来場者約150名
経費の総額・内訳概要	3万円（アルファ米、非常食カレー、容器等）
成果と課題	<p>【成果】 非常食を実際に扱うことで、その必要性を認識することができた。</p> <p>【課題】 より多くの生徒に非常食を紹介する機会があるとよい。</p>
成果物	非常食カレー

## 【実践プログラム番号： ⑬】

タイトル	理科：夏の課題「自宅の地震対策」まとめ / 中央祭（展示）
実施月日（曜日）	10月29日（木）
実施場所	多目的室
担当者または講師	森下 香織（教諭） ・ 石原 章彦（教諭）
所要時間	9：00～12：30
プログラムのカテゴリ、形式	5 教科学習 1 イベント・行事
活動目的	9 災害対応能力の育成
達成目標	火山・地震の発生メカニズムに関する学習を元にして、自然災害から自らの命を守るための備えについて考える。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<p>●方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「科学と人間生活（理科）」を受講している生徒は、授業内容を踏まえ、夏の課題をレポートとしてまとめる。</li> <li>② 中央祭に特設コーナーを設け、課題レポートを展示する。</li> <li>③ さまざまな種類の非常食を実際に並べ、来場者が家庭での備えについて考えるきっかけをつくる。</li> </ol> 
準備、使用したもの ・人材、道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題レポート</li> <li>・ 各種非常食</li> <li>・ 画用紙</li> </ul>
参加人数	レポート作成生徒100名 / 来場者約150名
経費の総額・内訳概要	1万円（展示用非常食等）
成果と課題	<p>【成果】</p> <p>「生徒自身が考えて実践する」という点においてはほぼ全員が達成できている。家族と一緒に課題に取り組み、家族で防災について話し合うきっかけとなった生徒も多く見られた。</p> <p>【課題】</p> <p>レポートを元に生徒同士で発表し合い、意見交換などが行えるとより効果的である。</p>
成果物	レポート

## 【実践プログラム番号： ⑭】

タイトル	防災を考えよう 中央祭（特設ブース）
実施月日（曜日）	10月29日（木）／ 通年
実施場所	学習コーナー ／ 図書館
担当者または講師	菅生 綾子（教諭）
所要時間	9：00～12：30 ／ 通年
プログラムのカテゴリ、形式	1 イベント・行事 ／ 17 その他（通年）
活動目的	8 防災意識を高める
達成目標	災害が起こったときにどうするかを考えるきっかけをつくる。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<p>●方法</p> <p>① パネルや図書などを展示したブースを学習コーナーに設置する</p> <p>② 自宅の地盤診断ができるパソコンを設置する</p> <p>③ 来場者も参加できる防災紙芝居型カードゲームを実施する</p> <p>④ 図書館では、生徒の防災意識を高める工夫を施した防災コーナーを設置する</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
準備、使用したもの ・人材、道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災関連図書</li> <li>・ボード</li> <li>・パソコン</li> <li>・防災紙芝居型カードゲーム</li> </ul>
参加人数	来場者約20名
経費の総額・内訳概要	2万円（展示教材、図書等）
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームの中で、多くの人が新しい発見をしており、防災意識が高まったと考える。</li> <li>・防災関連の本に目を通す人や、自分の家の地盤についての結果を真剣に目を通す人が多く見られた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <p>もう少し災害がリアルに迫っているという雰囲気が出せるようなブースを作ることが課題である。</p>
成果物	なし

## 【実践プログラム番号： ⑮】

タイトル	校内防災クイズの出題
実施月日（曜日）	10月22日（木）／10月30日（金）／1月6日（水）
実施場所	グラウンド（避難訓練）／講堂（学校祭全体会・全校集会）
担当者または講師	森 義秀（校長）
所要時間	2コマ×15分
プログラムのカテゴリ、形式	8 その他学校内での時間
活動目的	9 災害対応の能力の育成
達成目標	いざという時の消火活動や避難のあり方を考える。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<p>●方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 避難訓練後に取り組みの主旨を説明する/全校集会で出題する</li> <li>② クイズ用紙を所定の場所に設置する/クラス対抗とする</li> <li>③ 優秀生徒・クラスの発表と景品の授与を行う</li> </ol> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【正面玄関入口】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【クラス対抗校内防災クイズ】</p> </div> </div>
準備、使用したもの ・人材、道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内防災クイズ（担当者作成）</li> <li>・景品（さまざまな種類の非常食）</li> </ul>
参加人数	全校生徒
経費の総額・内訳概要	1万円（景品用非常食、ラッピング資材等）
成果と課題	<p>【成果】</p> <p>どこにどんな防火設備があるか、学校の構造がどうなっているかなどを生徒が認識するきっかけとなった。</p> <p>【課題】</p> <p>実際に消火器や消火栓をどう使うか、どのような方法を用いて逃げるかなど、災害が起こった時の速やかな対応力をより培っていく必要がある。</p>
成果物	校内防災クイズ

## 【実践プログラム番号： ⑩】

タイトル	防災の内容を取り入れた職員劇（学校祭：舞台発表）
実施月日（曜日）	10月30日（金）
実施場所	講堂
担当者または講師	若本 崇（教諭）
所要時間	30分
プログラムのカテゴリ、形式	1 イベント・行事
活動目的	8 防災意識を高める
達成目標	普段あまり目にする事のない防災グッズを身近な物として捉える。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<p>●方法 本校では毎年何らかのメッセージを生徒に伝える職員劇を上演しており、今年度は防災をより身近な話題とするために、その一部シーンに非常用持出袋の中身の紹介をコミカルに取り入れる。</p>  
準備、使用したもの ・人材、道具、材料等	・非常用持出袋 / アルミシート / ヘルメット / 携帯用トイレ
参加人数	全校生徒約500名・教職員約40名
経費の総額・内訳概要	1万円（劇中使用の防災備品等）
成果と課題	<p>【成果】 生徒の関心が高い職員劇に、防災の話題を取り入れることで視覚的・実践的に紹介することができた。</p> <p>【課題】 災害を主題とした劇の上演を検討する。</p>
成果物	職員劇

## 【実践プログラム番号： ⑰】

タイトル	防災関連リレー（スポーツフェスティバル）
実施月日（曜日）	11月10日（火）
実施場所	テニスコート
担当者または講師	古川 雄一（教諭）
所要時間	30分
プログラムのカテゴリ、形式	1 イベント・行事
活動目的	9 災害対応能力の育成
達成目標	行事を通して防災を身近なものとして捉える。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<p>●方法</p> <p>① バケツリレー 5人1組でチームをつくり、バケツリレー形式でさまざまなボールを運ぶ競技を実施する</p> <p>③ 毛布担架リレー 4人1組でチームを構成し、2本の木材と毛布で作った即席担架で、負傷者に見立てた大きな人形を運ぶリレー競技を実施する。</p>  
準備、使用したもの ・人材、道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種ボール / バケツ / シート / コーン</li> <li>・木材 / 毛布 / 人形</li> </ul>
参加人数	参加生徒約30名
経費の総額・内訳概要	1万円（ボール、毛布等）
成果と課題	<p>【成果】 楽しみながら取り組む中で、防災を身近に感じることができた。</p> <p>【課題】 ゲーム感覚が先行しないよう、知識の確認を改めて行う必要がある。</p>
成果物	なし



## 【実践プログラム番号： ⑩】

タイトル	教職員プレ防災訓練
実施月日（曜日）	6月10日（水）
実施場所	本校
担当者または講師	林 直樹（教諭）
所要時間	13:30～14:20
プログラムのカテゴリ、形式	16 避難・防災訓練
活動目的	4 災害を想定した訓練
達成目標	全校的な避難訓練に先立ち、教職員の動きや、簡易担架の使用方法、全体的な課題等について確認する。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<p>●進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 緊急地震速報受信（CD使用）</li> <li>② 指示責任者から各教職員へ指示カードの配布により、担当内容に従って任務遂行</li> <li>③ 避難場所へ全員（生徒役ぬいぐるみ搬送を含む）避難完了</li> <li>④ 事後アンケートの回収</li> </ol> 
準備、使用したもの ・人材、道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示カード6枚</li> <li>・ぬいぐるみ5体 / 簡易担架 / 車いす / 名前プラカード</li> <li>・緊急地震速報（CD） / CDプレーヤー</li> </ul>
参加人数	50名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	<p>【成果】 今回の訓練をプラスに捉える者の割合が高く、指示カードの活用意義も十分に理解された点も含め、訓練としてはおおむね良好であった。</p> <p>【課題】 今後は設定場面をいろいろと変えながら、より現実に近づけた訓練としていき、それに伴って実践的な力を着実に身に付けていくことが重要である。</p>
成果物	なし

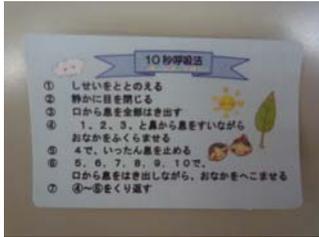
## 【実践プログラム番号： ⑱】

タイトル	地震を想定した避難訓練 / 避難経路の整備
実施月日（曜日）	10月22日（木） / 12月～1月
実施場所	本校
担当者または講師	藤田圭以子（教諭） / 林 直樹（教諭）・河井 寿恵（養護教諭）
所要時間	45分（4限）
プログラムのカテゴリ、形式	16 避難・防災訓練
活動目的	4 災害を想定した訓練
達成目標	全員が安全に避難できる術を考える。
実践方法・進め方 （簡条書き またはフロー）	<p>●進め方</p> <p>① 通電の設定：緊急地震速報の受信・一斉放送による避難指示</p> <p>② 指示責任者の指示により、授業担当以外の教職員は指示カードの担当内容に従って任務遂行する</p> <p>③ 避難場所で2段階点呼を行い、全員避難完了し安否を確認する （1回目：授業担当者による点呼、2回目：担任による点呼）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p>【左：1回目 右：2回目】      【蓄光テープ】</p> <p>◎避難経路の整備：東西階段1～5階までの蓄光テープの貼付</p>
準備、使用したもの ・人材、道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示カード</li> <li>・2段階点呼票</li> <li>・蓄光テープ</li> </ul>
参加人数	全校生徒・教職員
経費の総額・内訳概要	7万円（蓄光テープ、印刷代等）
成果と課題	<p>【成果】</p> <p>2段階点呼により、1回目で不明だった者が2回目の点呼で安否を確認することができた。</p> <p>今年度は「担任→年次主任→教頭」への報告との流れができ、昨年度より安否確認までの時間が大幅に短縮された。</p> <p>階段のステップに蓄光テープを貼付することで、昼夜ともに安全な避難経路の整備を行うことができた。</p> <p>【課題】</p> <p>車椅子の生徒やケガのため松葉杖を使用している生徒の具体的な対応方法を検討する。</p>
成果物	2段階点呼票

## 【実践プログラム番号： ⑳】

タイトル	教職員救急救命講習会 ー緊急時の対応講習会ー
実施月日（曜日）	12月4日（金）
実施場所	格技場
担当者または講師	鈴木 健介 氏（日本体育大学保健医療学部 助教）
所要時間	14:50～16:20
プログラムのカテゴリ、形式	2 講習会・学習会・ワークショップ
活動目的	9 災害対応能力の育成
達成目標	緊急度の評価方法や頭部外傷者の救護を学ぶ。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<p>●講義・実技演習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学校における緊急時の対応について</li> <li>② 2人1組で状況設定に応じた緊急度評価の実技トレーニング</li> <li>③ 頭部外傷者の救護（ログロール、座位から仰臥位への移動等）</li> </ol> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
準備、使用したもの ・人材、道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会用資料（講師作成）</li> <li>・プロジェクター / レーザーポインター / ヨガマット</li> <li>・ビブス（6種類×8組）</li> </ul>
参加人数	教職員54名
経費の総額・内訳概要	4万円（講師謝金・交通費、教材費等）
成果と課題	<p>【成果】ーアンケート感想よりー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・脈拍の確認が苦手だったが、今回の講習で押さえる場所がよくわかり、自信が付いた。</li> <li>・楽しく分かりやすく緊急時の対応が学べた。ログロール等実践的な講習会で大変ためになった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いざという時に行動できるためには、日頃からの意識と継続的な練習が必要である。</li> </ul>
成果物	資料

## 【実践プログラム番号： ⑳】

タイトル	教職員講演会 「災害と心のケア 一心の減災の視点から」
実施月日（曜日）	2月12日（金）
実施場所	大講義室
担当者または講師	坪井 裕子 氏（人間環境大学人間環境学部 教授）
所要時間	14:50～16:20
プログラムのカテゴリ、形式	2 講演会・シンポジウム
活動目的	6 防災に関する知識を深める
達成目標	教職員自身が災害時の心のケアについて知識を深めるとともに、災害時の対応能力の向上を図る。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<p>●講演会</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 災害時の心理的反応や心理的危機からの回復に必要なこと</li> <li>② 事後対応から未然防止へ</li> <li>③ ストレスの仕組みと対処方法について</li> <li>④ ストレスへの対処について10秒呼吸法の訓練</li> </ol> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
準備、使用したもの ・人材、道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会用資料（講師作成）</li> <li>・10秒呼吸法カード</li> <li>・パソコン / スクリーン / レーザーポインター</li> </ul>
参加人数	教職員約40名（予定）
経費の総額・内訳概要	2万円（謝金・交通費等）
成果と課題	<p>【成果】</p> <p style="text-align: center;">2月12日 実施予定</p> <p>【課題】</p>
成果物	資料

## 4. 苦勞した点・工夫した点

<p><b>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>&lt;工夫した点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数ですばやく動ける委員会を組織し、短時間で企画立案から実践までの流れを作りあげた。</li> <li>・現在行っている教育活動に「防災」の観点をうまく組み込んで、実行しやすいプランを各担当者に提示した。</li> <li>・各担当者と話し合う機会を多く持ち、取り組みがスムーズに行われるような体制づくりに努めた。</li> <li>・楽しみながら取り組める要素を重視し、生徒にも積極的に働きかけを行った。</li> </ul> <p>&lt;苦勞した点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国でもさまざまな「防災」の取り組みがなされているが、それらの要素をいかに本校の実状を織り込みながら、より取り組みやすいプランにしていくかに腐心した。</li> </ul>
<p><b>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>&lt;工夫した点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラン実施前に事前練習や試作等を行い、そこで実際やってみて分かったことや、課題を改善したり、新しい工夫やアイデアが出てきた場合は、積極的に取り入れた。</li> <li>・生徒が実際に行う取り組みについてはシミュレーションを行い、よりうまくいく方策を講じた。</li> </ul> <p>&lt;苦勞した点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施日直前に予定していた商品が品切れで入荷できないことが分かり、急遽他校にお願いし、物品を貸してもらったことがあった。</li> </ul>
<p><b>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>&lt;工夫した点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践に当たっては、事前の準備段階までにそれぞれがきちんと計画や練習、試作等を行っていたので、大きな混乱はなかった。</li> <li>・当日実践してみて分かることや、次に向けての課題を明確にし、校内の防災小委員会等で話題や議案とするなど、次年度につなげていく仕組みができつつある。</li> </ul> <p>&lt;苦勞した点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こだわりの強さや臨機応変の対応の難しさという特性のある本校生徒たちとの取り組みは、本人たちが納得するまで話し合ったり、実際にやってみて難しいことが分かったり、次々と課題が出てくることにはできるだけ生徒たちの思いが実現できるようにサポートすることに、多くの時間をかけた。</li> </ul>

## 5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	名古屋大学こころの減災研究会	講師の紹介
	日本体育大学	講師派遣
	人間環境大学	講師派遣
	名古屋市立工芸高等学校	情報交換 / 物品借用
保護者・ PTAの組織	なし	
地域組織	なし	
国・地方公共団体・ 公共施設	愛知県防災局災害対策課	講師紹介・派遣
	名古屋市港防災センター	施設見学・体験実習
企業・ 産業関連の組合等	なし	
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	なし	
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	なし	

## 6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p><b>成果として 得たこと</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな事情を抱える生徒が多数在籍するが、総合的な学習の時間や各種行事の中で楽しみながら『防災』に触れることで、生徒はより現実的に真剣に防災について考えを深めたり、新しいアイデアを出したりしながら一生懸命取り組む姿が多く見られた。</li> <li>・教職員を対象にしたプレ防災訓練後のアンケート結果では、今回の訓練を概ね肯定的に捉えており、また、課題として出された意見も「より現実に即した場面を設定しながら、実践的な力を身に付けていくための工夫が必要である」などといった前向きなものが多く、防災意識の高さや真摯な取り組み姿勢を感じ取ることができた。</li> <li>・地震を想定した避難訓練では2段階点呼を実施しているが、1段階目で未確認だった生徒が2段階目で改めて名前が挙がってくるなど、生徒個々によって時間割が異なる本校での2段階点呼の有効性が確認できた。</li> </ul>
<p><b>全体の反省・ 感想・課題</b></p>	<p>南海トラフ巨大地震に対する備えの必要性については、誰もが認める所であるが、何も起こらない平和な日々が続くと安心感が募っていくのが人間の心理であり、そのような状況の中で常に危機管理意識を持ち続けることは容易なことではない。</p> <p>とりわけ単位制高校においては防災体制の整備・教育の必要性や重要度が高いものの、実際に困難な状況や配慮すべき点が複雑・多岐に渡るためにさまざまな工夫が求められる。</p> <p>それ故に、本校でもこれまで何かと後回しにされていた『防災』であるが、今回の防災教育チャレンジプランへの参加により「防災意識を少しでも高めよう」という観点でアイデアや工夫を施しながら、さまざまな取り組みを行うこととなった。現在、『防災』をより真剣に捉える雰囲気芽生えてきており、全校の総力を挙げて防災への取り組みを継続的に進めることには大きな意義があると感じている。</p> <p>しかしながら、取り組みは始まったばかりであり、全体としての「広がり」や「底上げ」という点では、より一層の工夫や継続が必要であり、今後の大きな課題である。</p> <p>また、いざ災害が起きた時の具体的な対応策については検討すべき課題が山積しており、学校全体としての防災体制の整備を着実かつ速やかに行っていかなければならない。それ故に、今後もひとつひとつの課題を明確にして改善を図っていきたい。</p> <p>そして本校の個々の課題への対応策が他の単位制高校はもとより、全日制高校の参考になっていくことを強く願っている。</p>
<p><b>今後の 継続予定</b></p>	<p>学校体制としての今後の継続性も鑑み、次年度は新しい担当者の下でのさまざまな取り組みを計画しており、それによってより多くの教職員の意識改革と防災教育の指導力向上を礎とした本校の防災に関する対応策を確立していきたいと考えている。</p>

## 7. 自由記述欄

### 【防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等】

#### ● 「指示カード」(災害時アクションカード)

平成26年度、地震への備えとして病院等で取り入れられている災害時アクションカードを本校の実状に即した形にアレンジし、それを活用しながら防災訓練を実施している。より実用的なものとなるように今後も適宜内容を見直し、本校独自の「指示カード」に基づく避難誘導體制の確立を図っていきたいと考えている。

#### ＜活用要領＞

- ・指示責任者の優先順位は、「教頭 → 総務主任 → 教務主任 → 指導主任」とする。
- ・指示責任者は職員室在室の教職員数を素早く把握し、以下の表1、表2、表3に従って役割を指示する。

#### ＜記載内容の工夫＞

- ・各係の活動内容と校内地図を明記
- ・各班と見回り階数の数字を対応
- ・班表示に全6班を表す六芒星を使用
- ・担架設置場所を赤シールで表示
- ・避難経路を矢印で表示
- ・一枚ずつラミネートで加工



【指示カードの実物】

表1. 2係6班の担当表

係	班	担当
安全係	1班	1階+食堂
	2班	2階+北館
	3班	3階+体育館
	4班	4階
	5班	5階+E V内
応急処置係	6班	応急手当

表2. 指示カード人数割り振り表

12人以上	安全係	5班×2人=10人
	応急処置係	1班×2人=2人
残りは速やかに避難するよう指示		
11人	安全係	4班×2人=8人
	応急処置係	1班×2人=2人
残り1人は速やかに避難するよう指示		
10人	安全係	4班×2人=8人
	応急処置係	1班×2人=2人

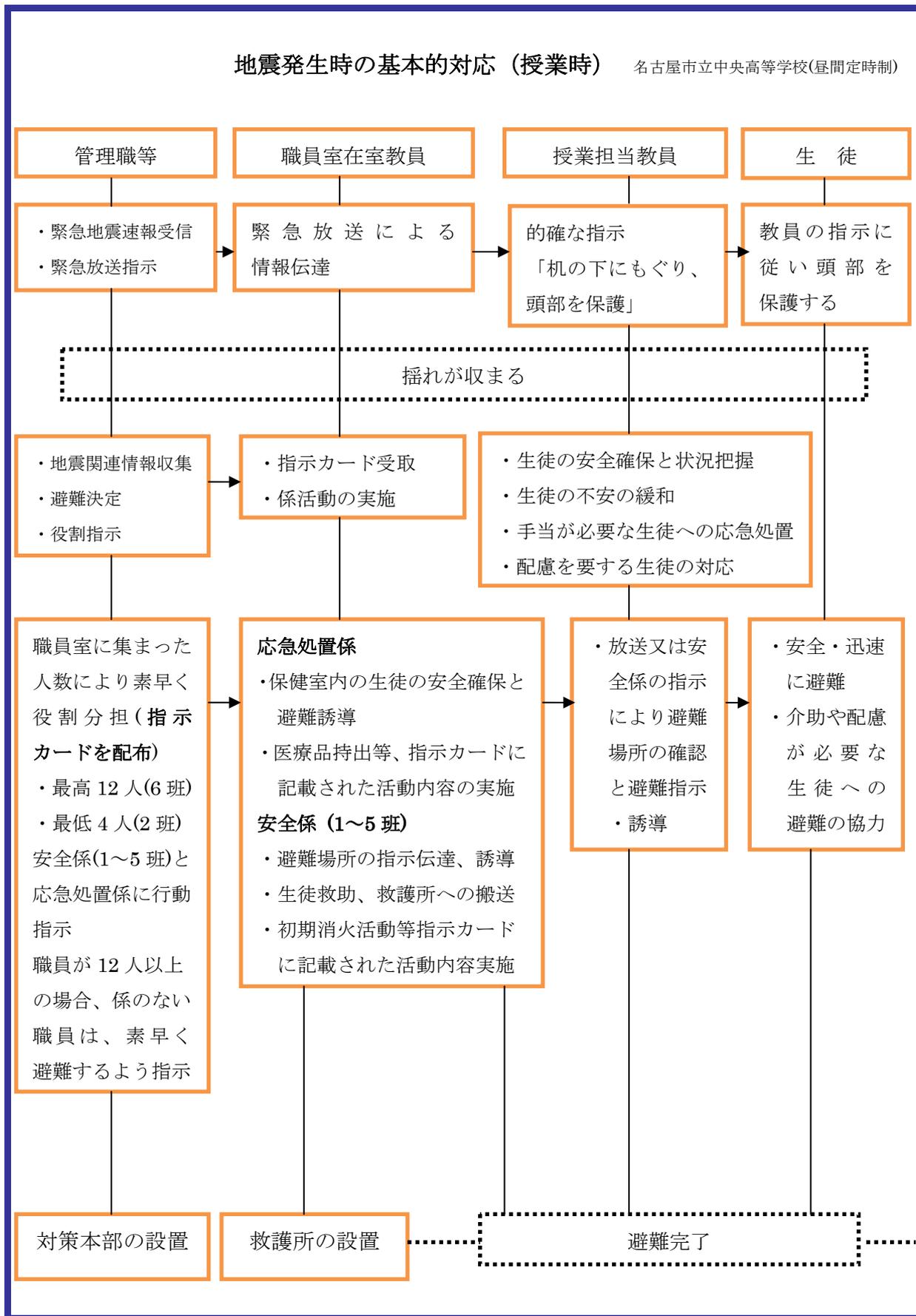
表3. 安全係・班の組み合わせ表

4班の場合:	5+4	3	2	1
3班の場合:	5+4	3	2+1	
2班の場合:	5+4	3+2+1		
1班の場合:	5+4+3+2+1			

4人	安全係	1班×2人=2人
	応急処置係	1班×2人=2人
3人以下	・応急処置係の持出物品を持ち、避難誘導の声掛けを主な役割とする。	
	・教職員の人員が確保でき次第、各階の安否確認を行う。	

(自由記述: 1/3)

### 地震発生時の基本的対応（授業時） 名古屋市立中央高等学校(昼間定時制)



(自由記述: 2/3)

## ●平成27年 プレ防災訓練

## ＜生徒役ぬいぐるみ配置場所と状況設定＞

場所	名前	設定状態
5階 エレベーター前	(A) 昼間キティ	逃げ遅れて取り残されている。
4階 トイレ内	(B) 新栄三郎	暗い個室の中で、座り込んでいる。
3階 格技場	(C) 菊里二郎	動揺して隅でうずくまっている。
2階 図書館	(D) 中央花子	落下した本に埋もれている。
1階 東階段	(E) 千種太郎	避難途中に過呼吸で倒れている。



【A】



【B】



【C】



【D】



【E】

## ＜対応方法＞

状況に応じて各階に設置されている簡易担架を使用し、生徒役ぬいぐるみの搬送を行った。

## ＜事後アンケート集計結果（回答数41）＞

大変よかった	よかった	どちらでもない	悪かった	大変悪かった
<b>6</b> (14.6%)	<b>19</b> (46.4%)	<b>13</b> (31.7%)	<b>3</b> (7.3%)	<b>0</b> (0.0%)

—自由記述—（一部抜粋）

## ＜大変よかった・よかった＞

- ・非常勤講師も含めて多くの人が参加し、避難方法を確認できてよかった。
- ・救助者の救助を含めた訓練を初めて行ったが、場面がイメージしやすかった。
- ・やはり実際に体を動かして覚えることは大事なことだと思った。

## ＜悪かった＞

- ・プレの訓練としては設定が簡易であった。
- ・参加者が状況判断する場面を設定するとよかった。

(自由記述: 3/3)